

それぞれが楽しめるプラン用意

第4回

三世代一緒に旅行にこそ醍醐味

弊社が旅行事業をスタートして間もないとき、ある男性から「パーキンソン病を患っている車椅子の母を故郷の福井県へ一泊二日で連れて行ってあげたい。小学生の息子も一緒に行き、

2日目は私と息子は福井県立恐竜博物館へ、その間母を本家へ連れて行ってもらいたい」と相談を受けました。弊社では、こういった三世代の旅行にこそ一番の醍醐味があると考えています。介護が必要な方と一緒に場合、その方に合わせて全員が同じ行動をとらなくてはいけなくなる場合があります。しかし、それぞれの世代で楽しみ方が異なって当然です。今回、依頼主の母親は本家を訪ねたいと願わ

れ、子どもは福井県立恐竜博物館へ行きたいと希望されています。また、旅行の準備を進めるなかで母親は温泉が大好きとわかり、宿泊地は芦原温泉に決まりました。

旅行初日は車での移動が長く、旅館到着後はしばらく部屋でゆっくりしてもらい、夕食前に楽しみにされていた温泉へ入ってもらいました。弊社ではこのような場合、なるべく個室の家族風呂を用意することになっています。それは、介助されている姿を他人に見られたくないと希望する方が多いからです。家族風呂を堪能された母親から、介護スタッフに一言「本当に気持ちよかったわ。でもね、

朝風呂が一番好きなのよね…」と。その気持ちを受けて、介護スタッフはその日の介護サービス終了後、大浴場を確認して大丈夫と判断。翌朝、念願の朝風呂を堪能していただきました。

そして、2日目は本家へ向かう組、福井県立恐竜博物館へ向かう組に分かれてスタートしました。恐竜博物館組は帰り時間ギリギリまで楽しみ、一方、母親は介護スタッフとともに本家を訪ね、お墓参りとお仏壇に手を合わせて満足気な様子でした。帰路の車中では「次は北海道を列車で旅したいの」と話されていたようです。

一泊二日の旅行であっても、旅行に行けたことが自信となり、今まで持つことができなかつた目標を自分で掲げることができる。これこそが人間の活力につながる。僕は信じています。



▶母と息子も大満足

いくつになっても
Let's Travel



ハンディネットワーク
インターナショナル（HNI）
代表取締役 春山哲朗

進行性筋ジストロフィーにより首から下の運動機能を全廃してなおビジネスマンとして第一線で活躍した春山満を父に持つ。ハワイ留学後、ネバダ州立大学ラスベガス校ホテルマネジメント学科へ編入。2007年HNI入社。取締役を経て、2014年父の急逝にともない、代表取締役就任。翌年、新事業「グッドタイム トラベル」開始。要介護になってもあきらめずに家族旅行を続けていた。家族旅行を実現。